

ゆるやかな窒息

作 荒井啓利

第一幕 「過去 -Past-」

それは起るべくして起ったのだとしたら、私は何に怒ればいいのか。

1と2。多分、女性。フィクションなので、性別はなんでもよかった。かもしれない。

空間は両義的。閉鎖的で開放的である。要するに屋上の。空想的ではあるが、まだ、頹廢的でもない。

他に入り口が存在しているようだったが、何かが出て、入ってくるという意味であれば形は問わなかった。

そして何より、この第一幕はほぼすべて、過去形で進行していく。

1 存在していた。電話がかかってきた。：あつ。慌ててポケットから携帯を出そうとした。そこにはなかった。

2 入ってきた。存在し始めた。

1 気が付いた。そそくさと、そそくさと、2の入ってきた、入り口の方：仮に2が出てきた場所をそう呼ぶとしたら、その入り口の方に向かって取りに行った。携帯が、入り口の向こうにあった。隠れてよく見えなかったので、手を伸ばした。誰か、そこにいたので、すいませんでした、、、苦笑いした、鳴り続けていた、電話に出た。

2 入れ違いに、煙草を吸いはじめた。下を見ていた。昨日のことだった。

1 2のことは気にかけていなかったようだった。電話で、話し始めた。：。そっかあ：、今日会いに、来られなかったか、煙草を吸っていた。1の方を見ていたが、下が気になっていた。

1 まあ、いや、仕方なかったよ。うん。ただ、まあ：明日どうなっていたかも分からなかったからさ。もし、会えたらと、思っていただけだ。

2 ああ：男と別れたのか。

1 いやいや：ほら：まあさ。こんな、時世だったし。

2 救急車の音がなった、驚き振り向いた。

1 救急車の音が遠のいていった、その方角を見ていた、はは：なんか：ここまで来たたら、さすがにこう、末って感じが、してきたよね。うん。末。終わった、って感じが、したよね。

2 振り向いたまま釘付けられたまま、煙草を啜えたまま、吸えずにいた。遠く、もしくは目前からは、煙は上がっていないかっただろうか、どうだったろうか。

1 いや：そっちも。気をつけたらよかったよ。ああ。うん。よい、週末を。

2 終末。

1 ……：なんか、嘘くさ、、あつ、と、バツの悪かったようにそそくさと、入り口の方に携帯を返した。

2 1を、目線、追いかけた？それとも、救急車、見ていた？いずれしろ、ただ。出会って恋をしてから、落下開始までの秒速。

1 携帯の代わりにその手には、小さな瓶がつかまされていた。

2 あるいは、これは恋ではなかったと、そんな運命のようなものではなかったのだと、終焉までの秒速。

1 持ち上げ、空の淀んだ黒に透かした。僅かな光が乱反射した、

2 どちらが早かったのか、

1 入り口の、その先を見た。何の音？

2 私はまだ、知らなかった。

2 存在していた。煙草を啜っていた。

1 近づいた。明らかに、2の周りには煙が漂っていたように見えだし、実際、煙たく感じたので、大袈裟に扇ぎながら、近づいた。

2 …？

1 あまり何も感じていなかったように見えたので、明らかに大袈裟に、咳き込んだ。

2 …成る程合点がいったのか、頷きつつ、自分の煙草は啜えたまま、新しい煙草を1にあげようとした。

1 信じられなかったものを見たような目つきで、さらに明らかに大袈裟にもはや嘘っぽく、扇ぎ、咳き込み、そして懐からマスクを取り出し、装着した。

2 そこでようやく、…火、別についてなかったんだけど。

1 …マスクを取り外した。呆れた。また啜えてただけ？

2 節約な。1の方へ向かって、煙草を啜えるか、どう？、か誘ったが、

1 首を横に振った。禁煙したの忘れた？だいたい煙草なんてさあ、今時どこに売ってたの？

2 奇跡的に見つかったのさ。存外、ただ啜えてただけでも味はしたからね。

1 首をあからさまに傾げ、隣で座り込んだ。溜息をした。はあ……。飛行機雲が幾重にも重なって、分厚い雲をつくっていた。

2 煙草を箱にしまって、下をまた確認し始めた。

1 …私ってさあ、

2 うん。

1 なんて幸せに恋ができなかったんだろう。

2 ∴ 今日なんの夢見たー？

1 恋した？自嘲気味だった、夢？とか。

2 はは、末世末世(笑)。

1 ∴ そっちはなんの夢見たのさ。

2 ∴ なんてことはなかった夢だったさ。当たり前すぎて、日常すぎた夢。今日帰るときの、夢。

1 ∴ どんな？

2 じつと、1のを見た。そして目を外し∴夢の中で私は∴今日、仕事が終わったら、いつもと同じように帰り道についたらしい。いつもと同じその道は、いつもと同じように長くなつた影に覆われていた。私は、いつもと同じ曲がり角を曲がった。いつもと同じスーパーがまだあいていたので、まだ辛うじて残っていた肉と魚を、いつもと同じように、いつのまにか1万円円になっていたレジ袋と一緒に買った。再び帰路につくと、いつもと同じ肉の焦げた匂いが、いつもと同じように赤い屋根の家から漂っていた。いつもと同じように、下手くそだった。いつもと同じ道、いつもと同じ車が、私を追い抜いていったら、信号が赤から青に変わって、それで私はいつもと同じように

1 つまんない夢だったんだね。遮った。

2 いや、夢なんて大体こんなもんだつたらう。1に向き直ったら、その髪の毛に、あ。ゴミ。手を伸ばした、が、

1 ああ、ゴミをとった。そして指につままれたそれを、見た。∴私はさ、味がなくとも無駄のない料理が食べたかったよ。手間隙のかかった、ゴミを出さなくてもすんだ料理。私には、いつもと同じ、肉とか、魚とか、要らなかったのさ。

2 ∴？もつたない精神的な？

1 違う、ただ終末だったただけだ。ゴミを捨て手を払い頭も払った。私の夢はさあ、ただ普通に普通の恋ができたなら、それでよかったんだよ。

2 普通の恋。∴例えば？

1 、そうだな、例えば∴普通に祈祷したり、普通に出会ったり、普通に仲良く

2 まった、普通に、祈祷∴？

1 いやだってまあ、私って信心深かったし？

2 いや初耳だったが。

1 普通の祈禱をさ、毎回してたのよ。するとね、これが不思議と、毎回、普通に出会ったりさ、普通に仲良くなったり、普通にドギマギしたり、それで普通に恋を自覚したり、普通に告白したり、普通にデートしたり、普通に倦怠期があったり、普通に別れの危機があったり、でも普通に仲直りがあったり、普通にハグをしたり、普通にキスをしたり、普通にセック

2 まった。もう大丈夫。わかった。：普通ってなんだったっけ、とは思ったけど。まあ、わかった。

1 そんな恋をね？しなかったわけさ。なのに昨日までのあいつときたら：。途中までは結構いい感じだったと思ってたよ。それが、私のこれまで付き合った人数聞いた途端、これ。

2 人数。：ちなみに何人。

1 昨日のあいつでちょうど：108人になったかな。

2 108！？

1 やっぱりまだ経験が足りなかったよなあ。

2 いや才能では？

1 私も昨日まではこれが最後の恋だと思っていたさ…。

2 逆にすごい。

1 あと何回これを繰り返したらよかったんだろう。

2 これ以上まだ煩惱の数を増やす気だったのか。呆れていた。：もうあんた、神様には嫌われてたんだよ。

1 こんなに信心深かった私が！？

2 いやでも失敗してたじゃん、、

1 だって毎回祈祷したらちゃんと会えてたんだよ！

2 いや、、ううん、、でもその、普通の祈祷ってのは毎回、いつもと同じだったんでしょ？それで、毎回失敗してたんなら、やっぱりそれって、意味なかったんじゃない？

1 …！気づいた。そっか、私の恋がうまくいってなかったのはそのせいだったのか…？

2 …腕の時計を見た、するともう休憩時間が過ぎていた。あー、、やばい、もう休憩終わりだった。ねえその話、また明日、いつもと同じ時間にここでもよかった？

1 ちょ、待った！それじゃ結局いつもと同じになっちゃったよ！

2 いや、別に私はいつもと同じでよかったし！戻ろうとした。

1 思い切り、引っ張っていた。よくはなかった！、私さあ、ようやく気付いたんだけど、今までどうやら、知らず知らずのうちに？「いつもと同じこと」に、囚われてたっていうか、でも、でもね？じゃあ、私、他にもさ、「いつもと同じこと」、やっちゃってたかもしれないなってさあ！？だから私の、これまでの、いっちゃん普通だった、理想だった恋の話、もおすこおしだけ、聞いてほしかったなあ、なんて、！

2 思い切り、また明日！弾け飛び、入口の方に消えていった。

1 あっ、ちょ…。取り残された、、。すこし諦めたように、ふらふらと座り込みに行った。…遠くから、除夜の鐘。のようなのが聞こえていた。気がした。その方向…入り口の方向…思い出した。懐から、小瓶。輝いていた。少し、蓋を開け、匂いを嗅いだ。思わず咳き込んでしまった。煙草…？やはり、1を追いかけた。

2 入ってきた。煙草を吸っていた。見下ろしていた。煙、立ち上っていた。

1 やってきた。たたずんだ。煙草一本を取り出し啜えた。…しかし、どうやらライターがなかった。隣の人に、あの、その、火、ありませんでしたか。

2 …ちらりと、1の方を見た。…これでよかったら。互いに口で啜えたまま、煙草と煙草、重ねた。

1 …あつ。

2 いつも、ここで煙草吸ってたよね。

1 え、あ、私、でしたか？はい、まあ、よく。

2 よく咳き込んだから…なんで吸ってたんだろう、って思ってた。

1 あ、、はは、苦笑いした、、そうでしたか、

2 名前は？

1 …あ。私は……………

ハイ！ここまででなんかおかしかったところあった？

2 …えっ、あ、、え、、ちょっとまった、今の何、

1 私が経験した中で、一番理想だった、普通の出会い。

2 えーと、、私さつき、下に戻ろうとした、よね？

1 そうだったね。

2 首を傾げ、再び戻ろうとした。

1 待った、待った！だって、やってもらったほうがわかりやすかったじゃないか。な？わかりやすかったよな？

2 わかりやすかったってか、、なんか今の…私らの出会いもこんな感じじゃなかった？

1 少し考えた。あー。そうだったっけ？

2 …まあなんでもよかったです。そもそも、今のが普通の出会いってのは、ちょっと…。

1 え、どういうこと。

2 鼻で笑った。あんたさあ、映画やドラマの見す

1 映画やドラマで何が悪かったわけ？早口だった。いい、これは理想だったわけ。リソウ。普通ってのは理想だったわけなのよ。理想だったからこそ、それが映画やドラマとかフィクションになったとしても、それをある程度こっちはリアルと感じたわけだったのよ。だからさあ、

2 わかった。わかったよ、好きにしてくれたらよかったですよ、。煙草を啜えようと箱を出し、一本啜えた。

1 …私も吸いたくなってきちゃった。

2 一本渡そうとしたが、

1 あー待った。…もしかしたら、デスクの中にまだあったかも、！そう言ったら、去った。

2 …しばらく見ていた。そして、煙草を箱から取り出し、啜えた。タタタン。タタン。タタタタタン。タン。音を口ずさんでいた。遠くを見ていた。

あ、消えた、…ふと、物足りなくなっただのか、煙草に火を、つけようとした。煙は、立っていった。自身の、影に目を落とした。その影に、火をつけようとしたが、煙草の先、火はついていなかった。もう一度、遠くを見た。煙草を箱の中にしまった。

1 飛び込み、走り込んできた。あ、あの。煙草、あった、ありました！

2 え、

1 あっ。慌てた。ごめんなさい、私人違いで、

2 …どうした、バシリ？

1 あ、いや、そういうわけじゃ、

2 じゃあ私に、善意で買ってきてくれたのか。

1 え？

2 ちょうど今煙草が切れたんだ。君が持ってきてくれたおかげでまだ吸えた。

1 あ、でも、

2 問答無用で奪い取った。そして、吸い始めた。

1 :

2 もし、

1 はい？

2 もし、そいつがなんか言ってきたら、懐から、小瓶を取り出し渡した、これ。

1 :一瞬、自身の懐を探した。しかし、それと似た、もしくは同じ何かはなかった……これって、
2 毒。

1 : : 呆然。 : 毒って、、そんな、私、

2 冗談。それは、毒だった、ものだよ。

1 : : ああ、、落ち着いた、なんだ、そう、でしたか。 はは。

2 いや、はは、じゃなかったが。

1 どうだった？普通に仲良くなったシーン。

1 2
…え、今のが！？

1 2
…やっぱ…、ダメだった、？

1 2
いやあの…、え、これマジで過去にあったの…？なんか突然、物騒なもの渡してなかった、？

1 2
あ、毒？いやあれはただの冗談だったでしょ。

1 2
うん…、うん…、？そうだった、？

1 2
人生は突然であふれていたからこそ、私たちは突然恋に落ちていたのさ…。

1 2
私を含めないでほしかったかな…？

1 2
じゃあ、もう時間無くなってきたので、次！巻きで！普通に告白したシーン！

1 2
私の意見は…？てか今どこにむかってしゃべった！？

1 2
3、2、1、ハイ！

1 2
席に座っていた。なにもなかった空間を見ていた。

1 2
席に座っていた。随分、滑稽な作品だったね。

1 2
そう？フィクションなんてこんなもんだっただでしょ。久しぶりだったから、きっと君は感覚を忘れていたんだ。

1 2
いや、滑稽だったよ。だって。もし彼女がその人に恋をしていなかったら、死ぬことなんてなかった。過去に囚われることなく、もっと別の人に恋をして、もっと別の未来があったはずだった。彼女たちは…、見て見ぬふりをしていた。それは、とても愚かだったよ。

2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2 1 2

愚か、だったか。

ねえ、あなたは、

遮った。死ななかったさ。

本当？約束、？

ああ、約束。

いつまでの、約束？

死ぬまでの、約束。だったよ。

：笑った、それじゃあ、結局この劇と同じ。

だけれど、私たちは、彼女たちとは違ったさ。

どういうこと？

これから先、死ぬまで、私たちは一緒だったからだよ。

体を預けた：

私はね。死ぬときは、好きな人に看取られたかった。見て見ぬふりなど、したくなかったんだ。だから、私も死ぬとき、あなたに看取られたかった。

じゃあ、、両思い、だった？

頷いた。

抱きしめた。

1 …どう、だった？

2 …え。あ、思わず離した。ごめん、

1 不思議そうにしていた。何が？

2 あ、いや…まあその…。よかったん、じゃなかった、？

1 おー…、よかった。なんだ、私の普通ってのは結構普通だったのか？

2 …ねえ、あのさ。今、この人たち、私たちを見てたよね、

1 え？何言ってたんだよ。これは、過去の話だったって。

2 …そっか。そして煙草を取り出し、吸おうとした。

1 あ、ちょっと、私の前では煙草やめたって言ったじゃん。

2 え、？

1 何、覚えてなかった？

2 いや、よかっただる別に、

1 よくはなかったよ。もう、値上がりしたんだからさ、

2 吸って、吐いた。煙。

1 咳き込んだ。ねえ…、

2 ああ、悪かったよ。煙草を、吸っていたもの、そして箱ごと1に押し付けた。そして、出て行こうとした。

1 ……ちょっと、どこへ、

2 それ、最後の煙草だったから。

1 え、嘘、

2 本当だったよ。最後の一本。だけどもう、吸えなくなった。

1 そんな…私、そういうつもりだったんじゃない、

2 ……もう、止められなかったさ。出て行った。

1 ……ハイ。…まあ、別に別れなかったんだけどね。これは、普通に別れの危機だった、し、この後、まあ、普通に、仲直りの…キスを、して。まあ、それから、まあ、いろいろと…。気持ち悪かった笑い方。へへ。で…どうだった？これもまあどうせ、普通だったでしょ…あれ？いなくなっていた2に気がついた。…おーい。おーい。探した。ふとまだ火のついたままの煙草に気がついて、…、ポケットの中、さっきもらった小瓶、その中に液体はなかった。入れて密閉して、火を消し、そして再びポケットに入れた、2を探しに出て行った。

— タタタン。タタン。タタタタン。タン。

2 出てきた。心なしか、音が近づいてきていた気がした、入り口の方を、見た。…いつもと同じように。…私はこれが終わった後、帰ったんだ。いつもと同じように。夢で、みた通りに、…私、なんであんな夢を見たんだ、？

1 出てきた。あ、なんだ、戻ってきてたのか。わ、いつの間にか空、赤くなってたね。

2 え。あ……。：赤？そうだったかな、振り向いた、

1 ：恋って、どこまでが恋だったんだろうね。

2 すこし、無言だった。

1 ：私はさあ、最後までを、恋って呼ぶべきだったと思ってたよ。お互いが、お互いの死を見届けられた時まで。

2 ：その後は？死んだらおしまい？

1 、死んだ後って事？あー、

2 考えてなかった？

1 うーん、、どう、だったかな……。死んだ後の世界か、

2 ：もう、明日どうなっていたかも、わからなかったんだし。そろそろ死んだ後のことも、考えておかなきゃいけなかったよ。

1 ：おお。なんか急に、、末世感出してきたじゃん……。うん……。少し考えた。

2 私はさ、死んだ後でも、恋が出来たらよかったと、思っていたよ。

1 愛想笑い。：私。：私は、そうだとしても今、キスをしたかったかな。

2 ：え？

1 私たち、明日どうなっていたかも、わからなかったもんね。

2 明日、って、どっちの、

1 明日は明日だったよ。明日以外、なかったよ。近づいてきた。：ねえ、さっきはごめんなさいだった。寄せ合った。私、まさかあれが最後の一本だっ

たなんて思ってたかった、

いや、、それはよかった、んだけどさ、あの、

さっきの煙草。懐から、小瓶を取り出した。…まだこれ、吸えなかったかな、

…その瓶、でも、毒、だったよね、

うん。これは、毒だった、もの。

いや、そう、だからそれは、、毒…だった、、あれ？

、、ねえ。請うた。さらに、圧。

、頷いた。ああ、うん、、じゃあ：震えていた。小瓶から、煙草をとりだした。

ねえ、あなたが吸ったら、その口で、キス、

ああ、ああ、、わかった、わかったよ、、口に啜えようとした。いや、待った、、私、私は、この煙草を、、いつもと同じように、啜えて、火をつけ

たらよかったか？それとも、ただ啜えただけでよかったか？この不安は、何だ、何から来たものだ、、？この毒は、本物じゃなかった、筈だった、、なら私は、私は何がこんなに不安だったんだろう、なあ、

早く。明日がもう、そこまで。―タタタン。タタン。タタタタタン。タン。音が近くなってきた。見て見ぬふりは、もうおしまい。

もう終わり…もう明日…？…明日、、これが終わったら、いつもと同じ、、。…夢。悟った。…ああ、そうか、そうだったか、、私は、見て見ぬふりをしていただけだった、、いつもと同じ、は、本当に、夢、だったんだ、、。いつもと、過去と、同じ毎日が、いつの間にか明日も塗りつぶしていつてくれているのだと、信じていた、、けれど明日は、もうやはり、フィクションではなくなったんだ、、明日は…。1を、優しく、、ああ、最後まで、私は、、！私は、好きだった人に口付けすら出来なかった…笑った。…でも、これが、夢だった、、いつもと、同じように、あなたといれて私は、、その、いつもと同じ、動作で、煙草を啜えた。苦しみだし、、そして、倒れた、

え、、ちよっと…？え、いや、、どうしたの、？

死んだ。煙草が、口から落ちた。

1
：何か、冗談だと思った。これじゃまるでフィクションだと思った。だから揺さぶった。おい、おい。どうかした？私、別にこんなことは、経験してなかったよ、？…ハイ！ちよつと、ちよつとやり直し、やり直しだって、おい、もう、もうおしまいだったって！

2
おしまいだった。もう、すでに、ものだった。

—タタタン。タタン。タタタタタン。タン。

1
身構えた。下の方から、音がした。下、、明日が…終末が、来た？

—タタタン。タタン。タタタタタン。タン。段々と、近づいてきていた、なり続けた、

1
ゆっくり。2だったものを、見た。叫んだ。それは、叫びだった。どこにも届かないが、少なくとも目前にいた、ものには届いた。

—タタタン。タタン。タタタタタン。タン。大きく、かき消してきたように。1人の、もしくは数人の人間など、なかったことにしてしまったかのように。

1
私が、引き止めていなかったら、、死ぬことはなかったんだろうか。私が、いつもと同じが嫌だなんて、言わなかったら…。…私はさ、ただ、あんたと一緒にいたかったただだったんだよな…。はは、今になって気づいたよ、やっぱり私たち、「いつもと同じ」、過去に、囚われてたんだ…。でもさあ、それが…いつもと同じそれが、一番さあ、落ち着いたんだよなあ、、なあ、私は、あんたの気持ち、考えないまま、、あんたは、恋ができなかつたまま、、。ごめん、、最後に側にいたのが、私で、、ごめん、、ごめん、、

2
どこか、笑っていたようにみえた。

―タタタン。タタン。タタタタタン。タン。もう目前だった。

1
私は、ただ、普通の恋がしなかった。過去に囚われることなく、新しい明日を見たかった。だから、祈ったんだ。神様に、祈っていたんだ。普通の恋ができたような、そういう世界にして欲しかったんだと、ただ。…やっぱり神様は、私のこと嫌いだったのかもな。…今更だったけれど、私は…死んだ後の世界を、祈った。でも、もう…遅すぎた気がして、そして…

―タタタン。タタン。タタタタタン。タン！

1
そして、過去はここで断たれ、深い断絶ののち、現在に至る。

(第2幕へ続く)

本戯曲の著作権は、作者・荒井啓利に帰属する。

戯曲に関するお問い合わせは、代表団体、窓辺とリップスまで。

戯曲の上演利用の場合、有料無料に関わらず、必ずご連絡ください。

窓辺とリップス

HP : <https://lipsonthewindow.wixsite.com/madobe>

MAIL : lips.onthewindow@gmail.com